

# MMAC NEWS LETTER

Portable Synchrotron "MIRRORCLE" Medical Application Consortium News Letter

エムマック・ニュース・レター  
創刊号 2005.4.10発行  
みらくる医療利用技術コンソーシアム事務局

## — 会長挨拶 —

滋賀医科大学教授 **村田 喜代史**



昨年末に設立されました、みらくる医療利用技術コンソーシアムの会長として一言ご挨拶を申し上げます。皆様ご存じのように、立命館大学理工学部の山田廣成先生が開発された「みらくる6X」は、シンクロtron技術を卓上型X線発生装置に組み込んだ日本発の画期的技術であり、種々の新しい医療装置への応用が期待されているものです。もちろん、この「ダイヤモンドの原石」ともいえる技術を医療機器として完成させていくためには、今後様々なアイデアや技術の結集が必要であり、その意味で、工学者、医師、放射線技師、様々な分野の企業の技術者が集まったコンソーシアムは大きな役割をもっていると考えています。

これまでの研究を通じて、みらくる6Xから発生するX線を利用したコンパクトな放射線治療装置や超拡大撮影などの新しい診断撮影装置の可能性が考えられており、近い将来にこのコンソーシアムを基盤として新しいタイプの医療装置が誕生することを心から願っております。皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

## — 理事長挨拶 —

立命館大学理工学部教授  
放射光生命科学センター長

**山田 廣成**



“みらくる”診断・治療装置を世の中に出したという熱い思いが通じまして、コンソーシアムを結成することになり、滋賀医科大学の村田先生、大阪大学医学部の手島先生に会長及び副会長にご就任いただくことができました。X線診断と放射線治療の権威にご就任いただきましたことは大変心強い限りです。

“みらくる”を医療装置として世に出すためには、単に光源だけが有ればよいわけではなく、様々な機能を付加する必要があります。今までにない最良の医療機器を提供したいという思いであり、“みらくる”はそれに成りうるという信念です。最良の医療機器を世に出すという仕事は、私企業が営利のみのために行うという枠組みをはるかに越える物であり、その意味で、コンソーシアムを設立して多くの医療機器メーカーにご協力いただきたいという趣旨です。

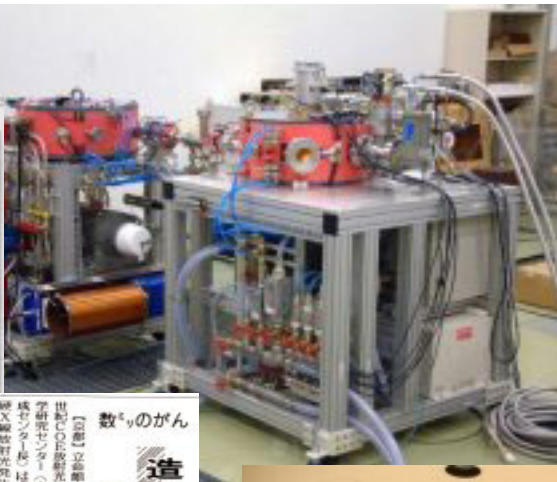
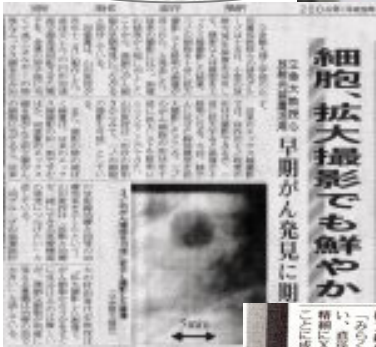
もちろん参加企業に利益が還元される仕組みも作りしたいと思います。出来上がった装置を、安全性も含めてきちっと評価頂くことが重要で

あります。従いまして、プロトタイプを複数の病院に設置して、評価頂くことや、更に新しい診断・治療上の知見を得るために、是非ともたくさんの現場の医師、放射線技師の方々にもご参加頂きたいと考えています。宜しくご支援の程お願い申し上げます。

(写真左: 卓上型放射光発生装置“みらくる6X”)

(写真下: コンソーシアム発足会)

## 報道記事



## 発足会報告

2004年12月15日（水）、立命館大学ロームプラザ記念館においてみらくる医療利用技術コンソーシアムの発足会が開催されました。発足会の参加者は48名で、成果報告の後、滋賀医大・村田先生による人肺撮影の所見、阪大・手島先生による“みらくる”の治療装置としての展望、立命館大・山田先生による今後の開発計画についての発表があり、そこで参加者の皆様からたくさんのご質問・ご指摘を賜りました。特に“みらくる”がコンパクトな高輝度硬X線発生装置であること、そして10倍拡大撮影に成功したことについて高く評価され、今後のガントリーを含めた医療専用装置開発への期待とコメントをたくさんいただきました。討論の後、正式にみらくる医療利用技術コンソーシアムの立ち上げを公表し、規約・役員承認を参加者の皆様からいただきました。引き続き行われた見学会では、とりわけ初めて来られた企業の方々からは、“みらくる”に対して大きな関心を引き寄せられたとのお声を頂戴しました。

また、発足会に先立って行われた記者会見では14社の報道関係者にお集まりいただき、翌日の新聞・テレビ放送で報道されました。「1mm癌の形状診断が可能に！」というフレーズは一般の方々にとっても大きな関心事であり、記者会見では多くの質問が山田先生・村田先生・手島先生に向けられ、発足会開始の時間がかなり遅れてしまう程でした。報道後も事務局に一般の方からの問い合わせがずいぶん寄せられております。  
(事務局長 佐々木 誠)

## 理事会報告

2005年2月3日、立命館大学にて開催

6項目が議題としてあがり、議論の結果は、以下の通りであった。

### 1. 理事会役員の追加承認

理事: 山田礼子氏(㈱光子発生技術研究所 代表取締役社長)  
監事: 松本政雄氏(大阪大学大学院医学研究科 助教授)

### 2. 入会状況及び新たな研究課題について(報告・提言)

現状の入会会員数は、学会会員19名(16グループ)、法人会員8社。今後の課題として、会員から提出された研究テーマと貢献可能な内容について検討していく。また、会員の拡大の為に、積極的な参加の呼びかけを行い組織の充実を図っていくことで合意。

### 3. 今後の運営方針

診断・装置の3つのワーキンググループをつくることを決定。

### 4. 年間スケジュール作成

研究会を企画し、年間計画に予め予定を組み入れる。招待講演、見学会を開催し理事会開催も同じ日程で組み込む。

### 5. 宣伝活動

今後、コンソーシアムのホームページを開設し、情報公開のひとつとして活用していく。情報内容としては、理事会で審議する。

### 6. その他

会則 第5条(1)項における“企業会員”の文言を“法人会員”に変更する。

## ご案内

理事会で、3つのワーキンググループを作ることになりましたので、参加者を募集します。コンソーシアム発足会では、多くの報道・新聞各社に取材をして頂きました。詳細につきましては、以下のホームページアドレスにアクセスして頂ければ、ご覧いただけます。

URL: <http://www.ritsumeai.ac.jp/sc/re/SLLS>  
入会のお申込みをされました法人会員におかれましては、年会費の振込みを賜りますようお願い申し上げます。

## 役員紹介

敬称略

- ・ 会長 村田 喜代史 (滋賀医科大学教授)
  - ・ 副会長 手島 昭樹 (大阪大学大学院医学系教授)
  - ・ 理事長 山田 廣成 (立命館大学教授)
  - ・ 理事 兵藤 一行 (高エネルギー加速器研究機構)
  - 本田 凡 (コニカミノルタエムジー㈱)
  - 山田 礼子 (㈱光子発生技術研究所)
  - ・ 監事 松本 政雄 (大阪大学大学院助教授)
  - 藤野 昇三 (滋賀医科大学助教授)
  - ・ 顧問 奥山 博信 (滋賀県工業技術総合センター-所長  
兼滋賀県商工観光労働部技監)
  - ・ 参与 中谷 吉彦 (立命館大学BKC研究部長  
兼リエゾンオフィス室長)
- (顧問、参与、理事の追加承認は、理事の方がたにより承認されました。)

## 事務局紹介

- 事務局長 佐々木 誠 (立命館大学講師)
- 事務局 三好 裕子 (立命館大学山田研究室秘書)
- 会計 長谷川 大祐 (㈱光子発生技術研究所研究員)

## 編集後記

新旧入替りの行事で忙しい時期の合間をぬって、創刊号発行の運びとなりました。昨年の発足会に参加できなかった方がたへ、最新の活動報告を早くお届けしようという思いと、創刊号にふさわしく、カラー多目の情報を掲載することに努めました。このニュースレターの呼び方は、事務局の独断で決めさせていただきました。“エム・マック”と言うのは、某パソコンメーカーと勘違いされそうですが、愛称として皆様に親しんで読んでいただければ幸いです。

(編集担当 三好 裕子)

